

遺跡が伝える安城の歴史

本市には、250力所を超える遺跡が確認されています。埋蔵文化財センターでは、平成28年度に発掘調査5件、試掘調査26件を実施しました。今回はこの中から、2件の発掘調査成果を紹介します。

◆弥生時代のお墓を発見

長先遺跡(藤井町)

長先遺跡は、西尾市との境、朝鮮川流域の碧海台地上にあります。調査の結果、この周辺では全く見つかっていなかった、弥生時代の墓跡を発見しました。

◀調査区
(北東から撮影)

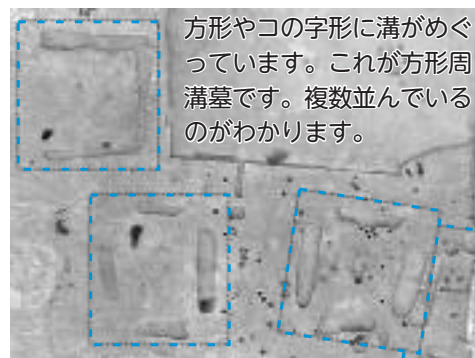
▶方形周溝墓(真上から撮影)

「方形周溝墓」って何?

方形周溝墓とは、弥生時代のお墓です。溝を方形にめぐらし、その内側に盛土をして埋葬します。しかし、後世の削平によって盛土は失われ、溝しか残らないことが多くあります。今回の調査でも、盛土は近代の畑地造成の時に削られてしまったことがわかり、溝のみ確認できました。

【新発見！およそ2100年前のお墓】

弥生時代中期後葉の方形周溝墓群を確認しました。方形周溝墓は、全部で8基。台地の端から内陸に向けて並ぶように造られていましたが、それぞれ大きさや形状がやや異なり、造られた時期にも少し差があるようです。



方形やコの字形に溝がめぐっています。これが方形周溝墓です。複数並んでいるのがわかります。



▲方形周溝墓から出土した弥生土器



▲土器を発見！傷つけないよう、そっと掘ります



方形周溝墓の溝からは、壺や甕など、弥生土器がたくさん出土しました。今回の調査ではお墓以外に明確な遺構は見つからなかったことから、この場所が墓地として利用されていたこと、この付近に集落があったことが考えられます。朝鮮川流域では、初めて弥生時代の墓地が確認されました。旧北浦(油ヶ淵)周辺に集落の様子や、この東方にある弥生時代後期から古墳時代前期に盛期を迎えた大集落・鹿乗川流域遺跡群をはじめとする遺跡との関係を探る上で、興味深い成果を得ることができました。

◆戦国期の大型の溝と、古代集落を発見

桜井城跡(桜井町)

桜井城跡は、戦国期(およそ500年前)に桜井松平家の居館でした。土地区画整理事業に伴い、平成27年度から城の外側にあたる部分で発掘調査を行い、複数の井戸や古代の溝などが見つかりました。平成28年度の発掘調査では、絵図に描かれていない大型の溝や、古代の竪穴建物跡などが複数見つかりました。

【予想外！戦国の大型溝】

戦国期の大型溝を確認しました。溝は断面「V」字形で幅約4～5m、深さ約1.4～2mあります。東西に70mほど延び、南へ曲がっていました。溝の中からは、桜井城があった時期と同じ頃に使われていた鍋や播鉢、天目茶碗などが多く出土しました。さらに、この溝は江戸時代以降に掘りなおされて再利用されたこともわかりました。



◀溝からの出土遺物



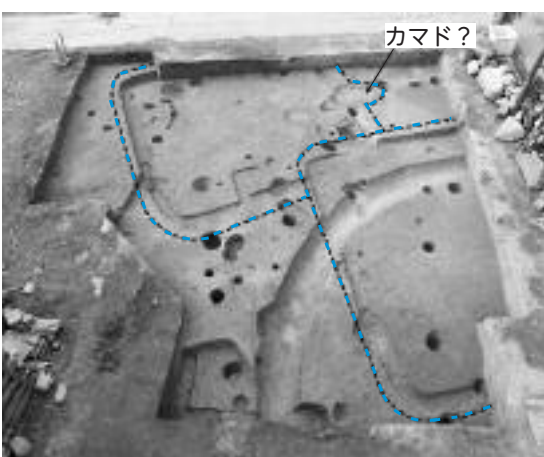
問▶文化振興課 (☎77)4477)

▶方形に細い溝がめぐらされているのが、古代の竪穴建物跡です。一辺6mほどあります。(東から撮影)

【古代集落もあった！】

平成27年度の発掘調査でも、一部で奈良・平安時代(およそ1200～1300年前)の溝や遺物が見つかり、古代からこの地で人々が活動していたことがわかりました。

平成28年度の調査では、当時の住居である竪穴建物跡などが複数見つかりました。この地域ではこれまで古代集落の存在は考えられてきませんでしたが、調査で複数の建物が見つかったことにより、この一帯に人々が住み、生活していたことがわかりました。



◆遺跡の調査にご協力を

遺跡は、安城市で暮らした私たちの祖先の歩みを記憶した、かけがえのないものです。一度破壊されてしまうと、二度と元に戻すことはできません。本市では、開発やむを得ず破壊される遺跡を事前に発掘調査しています。住宅建設などの開発工事を行う計画があれば、文化振興課までご相談ください。

◆調査結果の展示

今回紹介したものは、埋蔵文化財センターで展示しています。調査や展示品を紹介するパンフレットも無料で配布していますので、ぜひご覧ください。

◎展示日時

(火)～(日)午前9時～午後5時
(年末年始を除く)

※月曜日が祝日の場合は開館。

